

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム 平の庄		
所在地	大村市宮小路1丁目291-3		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	令和7年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 2月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平屋造りで施設内もスペースを広く取っており、ゆっくり、ゆったりと過ごして頂ける施設です。玄関から入ると天窓があり、差し込む光で明るい雰囲気です。施設の敷地内は、畑や芝生があります。桜の木や梅の木、レモンの木もあり春は桜で花見ができます。暖かい日は自然に囲まれた雰囲気でおやつを食べたり、夏は手作りの足湯で足をつけながらおしゃべりをしたりしています。午前中はビデオを活用しながら予防体操を毎日30分程度行ったりしています。また、国道沿いにあり、ご家族の訪問にも便利なところです。「その人らしく、ゆっくり、ゆったりと」を理念にその人らしい生活が送れるように職員一同努めて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然に囲まれた広い敷地内に立地し、梅や桜、水仙や菜園から季節の移ろいを感じることが出来る環境にある。入居者は、天気の良い日には敷地内を散歩したり、手作りの足湯に浸かりながらおやつを楽しんだり、またリビングでゲームや体操をする等、ゆっくりゆったりと過ごしている。手作りの食事は、入居者の楽しみであり、フラワーアレンジメント教室や工作教室、ハンドトリートメント等外部ボランティアとの交流もある。職員の人員不足や介護度が高い入居者が多い中で職員間で協力し合い、入居者がその人らしい生活が送れるよう支援に努めている。看取り支援を数多くの行っており、最期まで本人・家族に親身になって寄り添う姿勢は、家族の安心と信頼に繋がっている。運営推進会議では参加メンバーからの意見や提案、情報を事業所運営に活かしており、理念“その人らしくゆっくりゆったり”の具現化がみえる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」について玄関に掲示し、入居者様に自宅と同じように過ごして頂けるように管理者と職員は、時間優先ではないか、ゆっくり過ごすためにはどうしたらいいかを話し合い、ケアにつなげていくことを心掛けている	開設時からの理念であり、事業所内の目に留まる箇所に掲示している。管理者は新入職員に丁寧に説明している。今まで頑張ってきた入居者に対し、慌ただしい生活ではなくゆっくりゆったりと過ごしてもらうため、職員自身が気持ちにゆとりを持って支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の公民館での行事があるときは、窓からみんなで子供たちの様子をみたり、ボランティアの方々との交流を大切にしています。	自治会に加入しており、公民館での行事等の知らせが届いている。フラワーアレンジメントやハンドトリートメントのボランティアが訪れ教室を開いたり、近隣住民から農作物の差し入れが届く等地域との交流がある。また、高校生の現場実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の中で町内会長や地域の住民の方の話を聞いたりしますが、事業所から発信することはできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ほとんど報告会になっている。情報をもらったときは、積極的に取り組んでいる。(ボランティアの提案、町内会の行事の参加など)	2ヶ月に1度、規程のメンバーで会議を開催している。入居者の状況や行事の報告の他、意見交換を行っている。地域の情報収集の他、ヒヤリハットや事故報告を知りたいとの意見から、次の会議以降報告するようになる等、会議内容を運営に活かしていることが確認できる。ただし、家族のほとんどが運営推進会議を知らない。	運営推進会議の議事録から事業所の取り組み状況が確認でき、事業所への理解と信頼関係が深まるよう、家族に知ってもらう工夫が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状改正や提出をしなければならない事案が多く、内容の確認や質問事項などの連絡、質問が多い。現場の実情を理解してもらうというよりは、運営違反していないかどうかを問われることが多い。	管理者は、書類届出や相談事がある際は担当窓口に出向いており、提出資料等について不明な点があれば電話やメールで問い合わせしている。また、オンライン研修等行政から案内のある研修会や勉強会に職員が参加している。介護相談員を受け入れており、入居者と会話する機会をもっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修会で勉強を行い、学んでいる。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するためにはどうしたらいいかみんなで考えている。	指針を整備し、3ヶ月に一度、身体拘束等の適正化委員会を開き、話し合っている。また、年2回職員対象に研修を行っている。日中は開錠しており、入居者の動作を制止する言葉や気になる言葉遣いがあれば、都度、管理者が注意しており、職員を交替して支援にあたる等、拘束しない支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修会で勉強を行い、学んでいる。まだまだ安全策なのか、虐待に値するのか職員内でもさまざまわからないことも多いため、みんなで話し合い予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う場合は、時間を確保し、ご家族から入居者様の状況など話を聞きながら、契約書の説明と確認を行いコミュニケーションを取るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議の委員にご家族にも参加していただくなどして、事業所の状況を報告することで理解や提案、要望などを考えていただく機会や言える場を作れるよう努めている。	苦情相談窓口は明文化し、家族へ説明している。家族の意見や要望は面会時や電話で聞くことが多く、メールでやり取りする家族もある。面会や電話が少ない家族へは施設長が電話で状況を伝えている。3ヶ月毎に送付する事業所便りは家族に好評である。家族の要望を受けて、コロナ禍での面会を継続するなど反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がその都度意見を聞くようにし、相談をしている。	事業所は申し送りノートや口頭で意見交換、共有している。職員は業務の中やメールで、直接施設長へ要望や提案を伝え、施設長で決済できないものは理事長へ判断を仰いでいる。希望休やライフステージに合わせた勤務形態、スキルアップへの補助など働きやすい職場作りに努めている。衣類乾燥機の導入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを基準としている。また、希望休みを出来るだけ配慮し長く働ける環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍から、同業者との研修会が出来なくなり、また、人員不足から外部への研修会への参加が厳しくなり出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活リズムを理解することから行いなるべくご本人の話に耳を傾けて安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に時間をかけて、話を傾聴することで、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご家族からの相談を傾聴するとともに、担当の介護支援専門員に話を聞くなどして、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に過ごしている関係でいれるように、隣同士に座って一緒に食事をする。一緒に洗濯物を畳む、おしゃべりをして喜怒哀楽を一緒にするなどの関係を努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく家族との時間を確保できるように自室で一緒に過ごすようにしている。また、ご家族の名前を忘れないよう話の中でご家族の話をするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や病院受診など、ご家族と相談して継続するようにしているが、ご家族の対応が厳しくなったり、連れていくことが難しくなったりして関係継続が難しくなっていることが多い。	現在、面会の制限はなく、家族や親戚の他、友人や知人、近所の住民、神父の訪問があり、居室で過ごしている。馴染みの場所への外出支援は、家族の協力を仰ぎ、正月の帰宅や墓参り、孫の結婚式に出席など出掛けている。職員は家族への電話掛けや家族の名前を忘れないように、会話に取り入れるなど関係継続支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	利用者同士お話ししたり、一緒に過ごせたり できるように場を設けたりしている。難しい 場合は、一緒に体操をするとか洗濯物を畳 む、ゲームをするなどの工夫をして皆で楽し むように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	看取りで亡くなられて、契約が終了する方が ほとんどで、経過をフォローする支援は現状 ないが、支援するように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を聞くようにしているが、好き なこと、喜ぶことを視点にみんなで検討して いる。	事業所では理念のゆっくり、ゆったりに沿って起床 時間や日中の過ごし方も自由である。職員は毎日 入居者との会話をもち、思いを聞き取っている。 難聴の入居者は耳元で話し掛け、表出困難な利 用者は表情や仕草で判断している。認知症進行 の中で思いや意向の把握は工夫が必要であり、 職員で情報共有し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時に今までの生活歴や生活環境、 好きなことを書いてもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	今までの生活リズムを把握していく中で、ご 本人がまだ出来ている事を見つけて把握す ることに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	本人がよりよく生活ができるための課題や ケアのあり方について、介護職員より情報を 収集して作成している。	入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月後に短期6ヶ 月長期12ヶ月の目標を立て、本計画に移行してい る。見直しの際には、毎日の状況記録や目標に対 しての職員の意見を基にモニタリングを行い、本 人・家族の要望を聞き、カンファレンス後に計画を 作成している。家族の同意を得て、計画に沿った 支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・気づき記入し、 日々の記録を根拠にしながら、介護計画の 見直しにいかしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、出来る範囲でみんなで話し合いなるべく寄り添った支援やサービスを考えて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用や地域の花屋さん、病院、リハビリなど地域資源を活用し、施設外の方とのコミュニケーションや接することの支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ基本なじみのある先生を主治医にお願いしています。ご家族が今まで通り受診へ一緒にいかれたり、往診へ切り替えられる方もおられます。	これまでの主治医を継続でき、往診可能な協力医に移行することもできる。希望により歯科往診も受けられる。基本的に家族が受診に付き添っており、職員が通院支援する場合もあり、受診結果は双方で共有している。夜間急変時は主治医に連絡し指示を仰いでおり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日リーダーが情報をFAXで、協力医及び看護師に報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談しながら、情報提供や受け入れる状態を話し合い短期の治療で戻ってこられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状どこまでの支援ができるかを話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援していくように努めている	契約時、重度化した場合における対応および看取りに関する指針を家族に説明し、意向を聞いている。事業所では主治医の協力が得られれば支援を行うこととしている。10年ほど前から看取り支援に取り組み、家族と主治医と話し合う他、研修等行いながら、現在まで数多くの入居者を看取っている。看取り後は、振り返りの時間を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回の消防訓練と、防災のチェック表を作成し毎日点検している。	これまで夜間想定での訓練が続き、今年度は昼間想定での火災発生時の総合訓練を2回、消防署立会いの下、行っている。10月にはBCPに沿った水害時想定の実施している。ただし、避難所である法人医療機関までの実際の避難誘導はこれからであり、訓練実施記録から訓練時の詳細が把握できない。	入居者の安全と命を守るため、避難訓練の回数を増やす等、職員の身につく訓練の実施が望まれる。また、次の訓練に活かせるよう訓練記録内容の検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症が進むにあたり、対応が難しくなることもあるが、ご本人と会話を重ねながら対応するようにしている。	個人情報の取り扱いには写真掲載を含め、同意の署名を得ている。書類の保管場所も適切である。職員は守秘義務の誓約書を提出し、施設長は気になる時は指導し、周知を図っている。職員は排泄介助時など羞恥心に配慮した支援を心がけているが、居室のドアに広めの透明窓があり、室内が見えている。	入居者のプライバシー保護の観点から、居室ドアの透明窓についての検討、工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進むにあたり、対応が難しくなることもあるが、ご本人に選んでもらうなど会話を通して対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のペースが施設の時間にならないように、ご本人に話を聞くようにして生活をしてもらうように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や好きな洋服を選べるように対応している。朝から整容がご自分でできる方には、ブラシを手渡したりしてきれいにするのを忘れないように心がけて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合った食事形態を提供したり、職員も一緒に食事を食べて会話をしながら楽しく食事をするように努めている。	献立は施設長が作成し、専任の職員が調理している。嚥下に合わせたミキサー食やゼリー食にも対応している。入居者は盛り付けや茶わん拭きなどを手伝い、菜園の収穫野菜が食卓へ上り、会話が弾んでいる。正月はおせち料理とお屠蘇で祝い、入居者と一緒におやつ作りや庭で足湯に浸かりおやつを食べるなど楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌やカルテに記入し、スタッフ全員が把握できるようにしている。声掛けを通して少しずつ水分量の確保に努めたり、食事量を増やすように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制を活用している。ご本人が力を活かしながら食後のうがいや口の中の手入れの支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なかなかオムツを減らすという支援は、難しいが、汚染を減らすようにトイレへの声掛けやご本人の様子をみながらトイレでの排泄を大切に支援している。	職員は入居者のその日の排泄状況を把握し、声掛けや誘導を行っている。日中はトイレでの座位排泄を基本とし、立位困難な入居者は居室にて支援している。職員は本人が苦痛に感じない排泄支援方法を検討し職員間で統一した支援を行っている。パッド類の枚数が減少した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時のオリゴミルクの提供や10時の水分補給、11時過ぎから予防体操の実施を行ったりして予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴だが本人の体調や希望に合わせて柔軟に対応している。また入浴を好まない方には無理強いせず極力入ってもらえるように準備や介助の手伝いを行い、男性スタッフではなく、女性スタッフへが対応するなど、羞恥心への配慮も行うように努めている	入浴は日曜日以外は準備し、週2、3回を基本としている。体調や気分に対応し、日や時間を変えるなど無理強いのない支援を行っている。車椅子の入居者はユニットの浴槽の形状に合わせ、シャワー浴と特殊浴槽など支援方法が異なっている。ゆず湯や同性介助の希望に応じ、窓を開けて桜の花見や昔話や歌など楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまで好きなように過ごしてもらっている。また夜間はオムツの使用も行い安眠を重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なるべく薬局を固定し、相談がいつでもできるように努めている。また、一包化をお願いし日付と名前を記入してもらうことで服薬ミスなどの予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を一緒に畳んだり、出来ることは介助してしまわないように一緒に行うなどをして意欲を高めてもらうように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出することへの支援に努めている。天気がよく体調がいい日は外庭でおやつを食べたり、お散歩したり、おしゃべりしたりして日光浴と気分転換を心がけている。	事業所は重介護の入居者が多く、遠出の外出支援は行えていないものの、家族と自宅や墓参りに出掛ける入居者もいる。事業所の外庭は梅や桜、果物の木や菜園があり、ベンチや足湯に浸かりながら日光浴や外気浴、職員と1対1のおしゃべりや芝生でのおやつなど、車椅子の入居者も日常的に出掛け気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好きなものをいつでも買えるようにお小遣いを預かるようにしている。現金出納帳を記入し、報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方は、好きな時に家族と会話できるように電話をかけて話ができるように対応・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りをして、季節を感じてもらうように努めている。また、広さが気になる方には、スペースを小さくして寂しくならないように工夫をしている。	窓から見える風景から季節を感じることができる。建物の中央に共有スペースと台所があり、それに繋がる両ユニットのリビングでは、入居者がテーブルを囲んで談笑したり、自席でテレビ鑑賞したり、お茶を飲む等ゆったりと過ごしている様子が窺える。テーブルや調度品の配置を工夫し、リビングの広さから寂しさを感じないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間が、広さで寂しくならないように工夫したり、席の配置に気を使い過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、寂しくならないように写真やご家族とのつながりがあるものや今まで使っていたものをもってきてもらい気持ちよく生活できるように努めている。	和室と洋室とがあり、春を感じられるよう各居室の入口の壁の一輪挿しに桜がある。持ち込み品に制限はなく、家具やソファの他、愛用の化粧品や家族との写真が多数飾ってある。毎日職員が清掃換気しており、定期的にシーツ交換を行い、本人が快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が見てわかるように、貼り紙を使って教えるようにしたり、今まで出来ていたことをご家族に聞いてなるべく一緒に対応するように努めている。		